

「権威についての問答」

2022年04月15日

一行はまたエルサレムに来た。イエスが神殿の境内を歩いておられると、祭司長、律法学者、長老たちがやって来て、言った。「何の権威でこのようなことをするのか。誰が、そうする権威を与えたのか。」イエスは言われた。「では、一つ尋ねるから、それに答えなさい。そうしたら、何の権威でこのようなことをするのか、あなたがたに言おう。ヨハネの洗礼は天からのものだったか。それとも、人からのものだったか。答えなさい。」(マルコ福音書 11章 27節～30節)

主イエスはエルサレム神殿の「アンナス広場」で、法外な値段で献納物を売りつける商人たちを追い出し、台や腰掛けを覆す暴力事件を起こされ、祈りの家を強盗の巣にしてしまったと言われた。「宮清め」と言われる事件である。影の実力者であったアンナスの権力を支える財力を提供する「アンナス広場」の腐敗を弾劾したのである。神殿当局が支配する聖なる場所での「宮清め」は神殿の権威を貶めることで、断じて許すことはできない。彼らは主イエス殺害を謀ったが、民衆は神殿の腐敗を弾劾する勇氣ある言動に強く賛同、支持していたので、当局は手出しすることができないでいた。彼らはごまめの齒軋りをしていたが、この事件を契機に主イエス殺害を必定のこととして再確認した。

主イエスの一行は、翌日もエルサレムに来た。主イエスが神殿の境内を歩いておられると、最高法院の議員の祭司長、律法学者、長老たちが、どやどやとやって来て、主イエスを取り囲んだ。そして、激しい怒りを込めて、「何の権威でこのようなことをするのか。誰が、そうする権威を与えたのか」と詰問した。「このようなこと」、「そうする」とは、昨日、主イエスが行った「宮清め」の暴力事件である。彼らは、何の権威、誰の権威によって、神殿を侮辱したのかと問うたのである。主イエスは彼らの問いに答えず、逆に問い返された。「では、一つ尋ねるから、それに答えなさい。そうしたら、何の権威でこのようなことをするのか、あなたがたに言おう。ヨハネの洗礼は天からのものだったか。それとも、人からのものだったか。答えなさい。」この問答が、受難週における最初の論争である。論点はヨハネの洗礼をどう理解するかである。ヨハネは荒れ野に立ち、らくだの毛衣を着て、腰に革の帯を締め、預言者エリヤの風貌であった。そして、ばったと野蜜を食べ、禁欲的な生き方の中から、民衆に激しく悔い改めを迫り、ヨルダン川で洗礼を授けた。彼の一途な宣教に心を打たれ、ユダヤはもとより、多くの地域から人々が来て洗礼を受けた。ヨハネは預言者として、民衆から深く、篤い尊敬を集めた。このヨハネの洗礼は、神からのものか、人からのものかという問いである。問われた彼らは論じ合った。天からのものだと答えれば、「では、なぜヨハネを信じなかったのか」と言われる。人からのものだと答えれば、民衆はヨハネを神から遣わされた預言者と信じているから、民衆の支持を失って、権威、立場が危うくなる。彼らは「分からない」と言い、返答しなかった。主イエスは、「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、私も言うまい」と答えられた。

この問答は、作られた権威に寄りかかる者は主体的、責任的な言葉を持たないことを露わにしている。神殿当局者たちは神殿の権威を笠に着ていたが、彼らは、「私」を保持していないから、自分の言葉を持っていなかった。よくある事態ではないか。主イエスは、神によって立つご自分を確信し、言うべき言葉となすべき行動を現わされた。自分を持たない輩に権威について論じても、何の益もないと、問答を打ち切られたのである。